

原子力総合防災訓練と津波避難訓練 大規模災害に備え

平成23年3月、東京電力福島第一原子力発電所事故が発生しました。

この事故の教訓から、町では国の主催する平成25年度原子力総合防災訓練にあわせ、総合的な訓練を実施することで、原子力災害に係る関係機関の知識の習熟および相互の連携強化や町民の防災意識の向上を目的とした、長島町原子力総合防災訓練が10月12日にありました。

訓練は、九州電力川内原子力発電所からの距離が30^キ圏内（緊急時防護措置を準備する区域（UPZ））の5集落を対象に行われました。

対象となったのは、田尻、火ノ浦、汐見、潟、広野集落で、住民、消防団員らあわせて約230人が参加し、訓練では、災害対策（警戒）本部の設置・運営、災害情報の収集や避難誘導訓練などが行われました。

避難誘導訓練では、各集落の小学校や公民館を緊急集合場所に指定し、消防団員や町職員が住民確認を実施。自家用車で避難できない人などを、町が所有するバスに誘導した後、避難所

である町総合体育館へ避難しました。

避難所では、白い防護服を身にまとった職員が、避難住民のスクリーニング（放射線量検査）を行いました。

訓練終了後、防災担当職員が「実際に災害が発生した場合、避難所では公民館単位で生活することになる。町民一人ひとりが、できるだけ快適に生活できるように、助け合いをお願いします」と話しました。

災害対策本部で訓練を見守った川添健町長は「多くの町民の参加と協力があり、訓練がスムーズに実施された。災害発生時にも、今回の訓練を生かしてほしい」と話しました。

またこの日の午前中、津波を想定した避難訓練が、浦底地区の4集落（浦底、福ノ浦、三船、桂代）で行われ、町民や消防団員約300人が参加しました。

東日本大震災で、甚大な被害をもたらした大津波の影響から、参加した住民らはみな真剣で、防災に対する意識の向上が伺えました。



↑スクリーニングでは放射線量を測定



↑緊急集合場所で、職員の確認後バスへ乗り込む住民ら（田尻集落）



↑消火訓練を行う住民（福ノ浦集落）



↑津波を想定し、消防団員の誘導で高台へ避難する住民ら（浦底集落）